

1 単元名 したい! なりたい! 伝えたい! - Hi, friends 'want' 表現 -

2 本単元の価値

本単元は、主に学習指導要領「外国語活動」の以下の指導内容に基づくものである。

2 内容

- 1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。
 - (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。
- 2 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。
 - (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

子どもたちは、これまでに Hi, friends 1・2の単元を通して、「like」「study」「go」「turn」などの動詞や「what」「when」「how」「who」などの疑問詞、「would」「can」などの助動詞を使った基本的な英語表現を身に付けてきている。また、本研究の授業構造である、課題をもち、その解決のために、繰り返し外国人とコミュニケーションを図る活動を複数回経験している。そのため、ALTをはじめとする外国人と英語でやり取りすることにも慣れてきている。本単元は、1年間の外国語活動の経験を生かし、子どもが自分の伝えたい想いを自分の言葉(英語)で、外国人に表現することで、英語を自己表現の手段の1つとしてとらえることをねらいとした。

本単元の価値は、以下の3点である。

一つ目は、新しい英語表現「I want to be」を使った英語を身に付けることである。動詞「want」は、自分の想いを表現する基本的な英語表現である。本単元では、「want」を使いながら自分の夢を語る活動を通して、「I want to be」という新しい基本的な英語表現を身に付けることができるようになる。

二つ目は、英語を使うことで、自分の想いを発信できる世界が広がることを実感することである。本単元では、身近な外国人を通して、自分の想いを海外へ発信する活動をする。言語も文化も違う、しかも同世代の子どもへ発信する経験は、英語が自分の世界を広げる手段となり得ることを現実的に体感することができる。

三つ目は、1年間の学習の成果を実感できることである。本研究は、教科化を視野に入れた外国語活動として、基本的な英語表現を身に付けさせることを意識してきた。そのため、既習の英語表現を各 Lesson で積極的に使わせている。本単元は、今まで経験してきたことを総動員して自分の想いを伝える活動として位置付け、子どもたちが今まで学習してきたことを発揮し、その有用性を実感できるようにする。

3 本単元で学びをつなぐ力を高めた姿と学びをつなぐ力

本単元における学びをつなぐ力を高めた姿とは、**ゲストティーチャーの想いを受け止め、自分の夢や想いを海外の小学生に発信するために、「want」の表現を基に既有的英語などを組み合わせながら、ビデオレターを作るためのコミュニケーションを図る子ども**である。この姿は、自分の夢や想いを語る夢スピーチをつくるために、

ゲストティーチャーとコミュニケーションを図りながら、改善している姿で評価する。

子どもは、ゲストティーチャーの反応から、「I want to be」の表現を基に、どのような英語を組み合わせるとよいか考えることで、より実用的な英語を使い方を体験する。

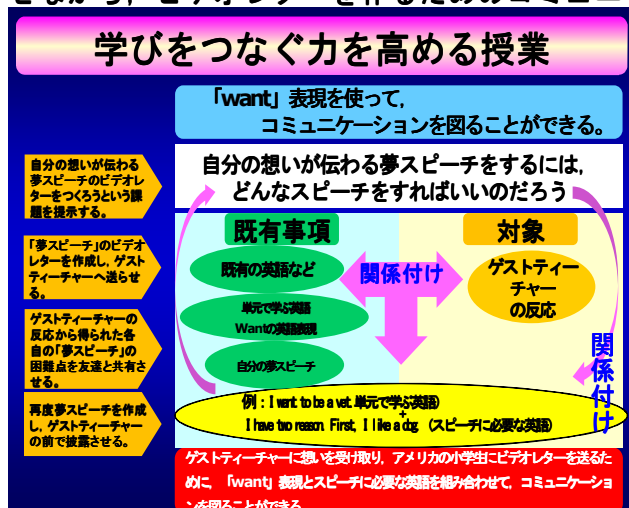
なお、本研究における「中核的な知識や技能」、「対象」、学びをつなぐ力、考え方の自覚を次のように設定する。

① 「中核的な知識や技能」
初歩的な英語運用能力 (I want to be を実用的な場面で使える力)

② 「対象」
ゲストティーチャーの反応

③ 学びをつなぐ力

ゲストティーチャーの反応を基に、関係付けるすべを用いて、自分の「夢スピーチ」(I want to



be の表現) を振り返り、既存の英語などを組み合わせて、よりよい「夢スピーチ」をつくる力

④ 考え方の自覚

外国人の反応を基に、「I want to be」表現に、理由などの英語（既存の英語）を組み合わせれば、よりよい「夢スピーチ」ができるという自覚

4 指導計画 全5時間 (150)

※詳細は別紙「単元カード」参照

5 指導の構想

本単元は、「I want to be」などの英語表現を使って、自分の夢を表現する学習である。しかし、自分を知っている人に英語で夢を表現する中では、自分の想いを表現する意欲を高めることは難しい。また、より自分の想いを伝えるために、「I want to be」を基に、既存の英語を総動員して組み合わせながら、表現するまでには至らない。そこで、ゲストティーチャーの祖国の子どもたちに日本の子どもたちの夢を紹介したいという強い想いに触れさせる。そうすることで、子どもたちの意欲を喚起し、自分を知らない未知の外国人にビデオレターを送るという課題から、より詳しく、より分かりやすく伝えようとする姿をねらい、以下のように働き掛ける。

働き掛け1

ゲストティーチャーの想いを知り、自分の想いが伝わる「夢スピーチ」のビデオレターをつくらうという課題を提示する。

子どもは、未知の外国人に「夢スピーチ」のビデオレターを送るためには、どうしたらよいか問いをもつ。そして、自分の夢を英語で語るために既存の英語からスピーチを考えようとする。しかし、夢を語る英語表現 (I want to be) の言い方が分からず、どのような英語なのか知りたくなる。そのため、夢を語る英語表現 (I want to be) を提示し、慣れ親しませる。すると、子どもは夢を語る英語表現を基に、自分の「夢スピーチ」を考えることができるようになる。

働き掛け2 (1・2日目)

「夢スピーチ」を作成させ、ゲストティーチャーに披露させる。

子どもは、それぞれでつくった自分の「夢スピーチ」をビデオ撮影しながら練習し、ゲストティーチャーに披露する。すると、ゲストティーチャーから、もう少しこうして教えてほしいといったお願いのメッセージが返ってくる。子どもは、ゲストティーチャーの反応から、自分の「夢スピーチ」にさらに何かが必要なことに気付く。そして、より自分の想いが伝わる「夢スピーチ」は、どのようなものなのか困難点に遭遇する。

働き掛け3 (1・2日目)

ゲストティーチャーの反応から得られた「夢スピーチ」の困難点を友達と共有させ、解決策を考えさせる。

子どもは、ゲストティーチャーの反応から自分のスピーチをタブレット端末などで振り返り、それぞれの「夢スピーチ」の困難点について、話し合うようになる。そこで、共通点をまとめていくことで、子どもはゲストティーチャーの反応を基に**関係付けるすべ**を用いて、「I want to be」の英語表現に説明や補足などを加えるための英語が必要であることに気付き、既存の英語などを組み合わせて解決策を考える。そして、自分の「夢スピーチ」を見直し、より想いが伝わり、自分を知らない外国人にも分かる「夢スピーチ」を組み立てていく。

働き掛け4 (1・2日目)

再度、「夢スピーチ」を作成させ、ゲストティーチャーの前で披露させる。

子どもは、つくり直した「夢スピーチ」を基に、ゲストティーチャーの前で再び披露する。そして、ゲストティーチャーが、その場で感想を述べていく。そうすることで、子どもは、ゲストティーチャーの反応を基に、自分の「夢スピーチ」を再度見直す。このようなゲストティーチャーの前での披露と「夢スピーチ」の見直しを繰り返し行っていくことで、子どもはより自分の想いが伝わり、分かりやすい「夢スピーチ」になっていくことに気付く。そして、ゲストティーチャーに喜んでもらい、自分なりの「夢スピーチ」が完成することで、**関係付けるすべ**を用いて自分の想いが伝わり分かりやすい「夢スピーチ」になったことと、そのために「I want to be」を基にした夢を語る英語表現とをつなぎ、目指す子どもの姿になる。

※働き掛け3と働き掛け4は、繰り返す。

そして、どのような英語を組み合わせたことで、自分の想いが伝わり、分かりやすい「夢スピーチ」になったのかを振り返らせ、「I want to be」の表現に夢を語るための英語表現を組み合わせるよさに気付かせる。

自分の「夢スピーチ」に自信をもった子どもは、実際にアメリカに送るためのビデオレターをつくるため、それぞれのスピーチを撮影する。そして、ゲストティーチャーに送ることで、感謝の言葉をもらい、課題が達成されたことを実感するようになる。

6 本時の構想<第2日目> 5/6時間(45分授業)

(1) ねらい

ゲストティーチャーの反応から、関係付けるすべを用いて、「I want to be」の表現と既有的の英語とを組み合わせ、**「夢スピーチ」**を完成させることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆考えるすべ	教師(HRT) の働き掛け	ゲストティーチャー(GT) の働き掛け
<p>0 ウォーミングアップをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Hello! Miss Cary. • I'm OK, and you? • Hello! Tomo teacher. • I'm good, and you? • Taro Sato. <p>※答えになった子は、前に出て自分の夢カードをもつ。(全員で)</p> <p>What do you want to be?</p> <ul style="list-style-type: none"> • I want to be a teacher. • It's cool! • Miss Carly! • It's nice! <p>※発表が終わったグループは、Carlyさんのアドバイスは、どんなことだったか考えている。</p>	<p>○指示「Everyone, stand up.」</p> <ul style="list-style-type: none"> • Hello! How are you? • I'm fine, thank you. <p>○指示 「Let's play 'Who am I?」</p> <p>※スリーヒントクイズのアレンジ版をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • I'm a boy. I like sushi, I play soccer. Who am I? • Please repeat after me. What do you want to be? • What do you think? (指名された子ども以外の子を指す) <p>※何題か出題する。 ※Carlyさん問題を出題する</p> <ul style="list-style-type: none"> • I'm a woman. I live in Gosen City. I like soccer. Who am I? • Please repeat after me. What do you want to be? <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">Carlyさんの夢 I want to be a Japanese teacher. I have two reasons. First, I love Japan. So, I want to teach Japanese to my students. Second, I like children. I want to study with them. Now, I stay at Japan. I study Japaese very hard. Thank you.</p> <ul style="list-style-type: none"> • What do you think? <p>○指示 「昨日、発表が途中だったグループは、Carlyさんに伝えよう」</p>	<p>○指示「Let's say hello!」</p> <ul style="list-style-type: none"> • Hello, everyone! • How are you? • I'm good, thank you. <p>※ゲスト問題で参加。</p> <p>※reasonを使った「夢スピーチ」が終わっていないグループのSpeechを聞く</p>
<p>ゲストティーチャーの反応から得られた「夢スピーチ」の困難点を友達と共有させ、解決策を考えさせる。 【働き掛け3】</p>		
<p>1 Carlyさんの反応を推測しながら、困難点を友達と共有し、解決策を考える。</p> <p>○困難点の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大体伝えられるようになったかな。 • 理由は、多分伝えられるようになったような気がするけど。 • What do you do for your dream? って、 • 今、何してるって。 • あれ？さっきCarlyさんの「夢スピーチ」で言ったような。 <p>○解決策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> • あ、分かった。Carlyさんは、日本語の先生になるために、今一生懸命に勉強しているんだ。 • つまり、最後は夢に向けて頑張っていることを言ったね。 <p>☆上記の~~~~~のような頑張っていることに気付いた子どもが関係付けるすべを用いた子どもである。</p>	<p>○発問 「昨日、Carlyさんと『夢スピーチ』に夢の理由を伝えらるようになりましたが、学習をしましたよね、伝えらるようになりませんか?」 【働き掛け3】</p> <p>※‘Who am I?’クイズのCarlyさんの夢を想起させ、繰り返し聞かせる。</p> <p>※子どもの意見を基に、相手に伝わる「夢スピーチ」のポイントを整理する。</p>	<p>※What do you do for your dream?は、前時で話しているが、もし出ないようであれば、再度話をする。</p>

再度、「夢スピーチ」を作成させ、ゲストティーチャーの前で披露させる
【働き掛け4】

2 解決策を基に、自分の「夢スピーチ」を直し、GTに披露する。

- ※4人班で準備する。(班は、子どもの英語経験の似た者同士で編成し、学年・性別は均等に作る)

例(個人)

Hello! My name is Taro.
I'm 11 years old. I have a dog.
I want to be a doctor.
I have two reasons.
First, I want to help many people. Second, My father is a doctor. I like my father.
I want to be a doctor.
Now, I study all subjects very hard. Thank you!

- ※必要に応じて、タブレット端末で録画する。

☆上記の~~~~~のような英語を加えた子どもが関係付けるすべを用いた子どもである。

3 『夢スピーチ』づくりで分かったことを書く。

- ・Carlyさんと話していくうち、『夢スピーチ』のポイントが分かっていった。自分の夢を伝えるためには、理由の伝え方を工夫(speechの場合、becauseでなくreasonを使うこと)をしたり、頑張っていること(I study very hardなど)を伝えたりするといいことが分かった。

☆上記の~~~~~のような記述をする子どもが考え方を自覚する子どもである。

○指示「『夢スピーチ』をつくり直してみよう」【働き掛け4】

- ※つくり直しは、各自のものを班で相談しながら進めさせる。

- ※適宜、GTに披露させながらつくり直させる。

- ※動詞や名詞で分らない英語があつた場合は、HRTやGTが教える。

- ※文法的に難しくなるようであれば、簡単な文で説明できるようにしなせらる。

- ※班をより回しながら、子どもの様子を確認し、適度にサポートする。

- ※班で練習している様子を巡視しながら確認し、大体的内容を把握しておく。
- ※難しい英語は、子どもに教える。
- ※各グループでスピーチを聞き、感想を述べる。

GTの反応

Oh, It's great! Nice speech.
I understand your dream.
I hope you will be a very good doctor. Thank you.

○指示「Carlyさんに伝える分中から、どんな工夫をしたかから、『夢スピーチ』が出来上がったか」【検証のための働き掛け】

7 評価

- ※「英語教育の在り方に関する有識者会議」(資料)2014.9.26に基づき、次の視点で評価する。
＜英語＞【目標】

- (1) 身近で簡単なことについて話される初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
- (2) 身近で簡単なことについて、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。

【技能 SP1】Spoken Production1

自分の考えや気持ち、事実などを、聞き手を意識しながら初歩的な英語で伝えることができるようにする。

- ・ゲストティーチャーの反応から得られた困難点を基に、関係付けるすべを用いて、「I want to be」の表現に~~~~~のような今頑張っていることを加えることに気付くことができる。【目標(1)】

- ・ゲストティーチャーの反応を基に、関係付けるすべを用いて、「I want to be」の表現に~~~~~のような今頑張っていることを伝える英語を加えて話すことができる。【目標(1)】【技能SP1】

※次の「考え方の自覚」について評価する。

本單元における考え方の自覚

外国人の反応を基に、「I want to be」表現に、理由などの英語(既存の英語)を組み合わせれば、よりよい夢スピーチができるという自覚。

- ・Carlyさんの反応を基に、「I want to be」表現に~~~~~のような英語を組み合わせることで、よりよい「夢スピーチ」ができることが分かる。